



- Lost · gradation -

眠るまで語り合おう

キミの長い髪 撫でていたい

出来るなら このままずっと

キミを救いたかったのは、

救われたかったから

僕自身が救われなかったから ---

そう、きっと僕らは似た者同士

あの日 無力な僕らは

白昼夢に誘われて

斯う空へ叶わずに

ただ 淡い繋がり求めてた。

いつまで洗い流せばいい？

どこまで歩き続けられればいい？

止まない問いかけに

僕らは同じ場所を迷い立ち尽くすけど

大丈夫、

夢の中の夢に落とされて

未だ けだるいデジャヴを見てるだけ

泣かないで

怯えないで

目の前を塞ぐのは 何？

閉ざしてしまうのは なぜ？

雨の予感

キミはしばらくうつむいて そっと呟いた

闇の中、ぼつりと浮かぶその言葉に

認識だけが追いつけなくて

混迷は流れに連行されて

まだ しがみつく香りと沈殿物を残してく ----

傘をあげるよ

わけもなく 妥協と節度

らしくないかな？

でも ごめんね

僕がキミを追い詰めるなら

きみを苦しめるなら

キミの事

、救いたかったよ 誰よりも

追いかけたかったよ 本当は

例え 過ちが理不尽に繰り返されたとしても

見えないもの、無条件に信じていたかった。

けど 言えなかったよ

でも 出来なかったね

雨は上がるの？

キミが霞んでく 僕が消えていく

色褪せた世界で 時を縫い合わせても

やがて 色もなく 形もなく 意志も持たない 真空に押しつぶされて

Now my thoughts are inscribed

今 想いは刻まれる

Now it is going to be broken

今 それは壊れようとしている

I am trying to get through here

今 ここを通り抜けようとしている

気が遠くなるまで

キミが見えなくなるまで

僕らは 長いながい直線を 引いていく

キミの細い髪 撫でていたい

出来るなら このままずっと

くだらない夢 打ち明けながら

笑っていたい 朝までずっと

ねえ、暁が漂白されたなら

どうか もう一度 あの空へ

騒めきが収束されたなら

ためらわず あの四季へ

何も言わなくていいから

傷付かなくていいから

もう 何も

もう 誰も . . .

